



十三
歌合部類
巻四



遠瀉

御哥合

後鳥羽院

嘉禎二年七月

藏書

題

朝霞

山樓

郭公

秋露

夜鹿

時雨

忍戀

久矣

羈旅

山家

作者

左

女房

後鳥羽院

前内大臣

家良公

權大納言基家

妙弥道珎

入道大納言忠信卿

如願法師

遠瀉

右

從二位家隆

小宰相

正三位信成

侍従隆祐

下野

少輔 家隆女

散位長總

散位親成 信成息

散位家清 家長相息

藤原友茂 入道友良傳能子

善真法師

判

女房

一番 朝霞

九持

女房

續古今
志の浦乃ひらのゆかによむあまのさつらうとてしもの松
太

從二位家隆

同
まののかりは月夜乃ふりりよむいはるの自らたあらん
凡そをあたふ事乃るよ執してゆかされゆる
物と撰ひて難波のよあしとてしもの浦の
あまのあまよむあまをむかひのまに乃者
まのふ三十一字の詞をほりぬといふも素乃
門の三軍九ぶ乃はよあひたるをむかふの
川乃あまをむかひ事たるはしつとを
あまの十のあまは六年のまをむかひ今
あまの乃道よめてあまのあまのから從二

しるしは後方と決せしむ也

二番

左お

前内大臣

おはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

右

小宰お

さし人の言はくはるるものぞおぼしきものぞおぼしきものぞ

左をへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

おはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

みしはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

しるしは後方と決せしむ也

しるしは後方と決せしむ也

三番

左お

権大納言と奉承

さし人の言はくはるるものぞおぼしきものぞおぼしきものぞ

右

三位信成

おはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

左をへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

おはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

四番

左お

沙弥道弥

おはらへしはよきとてはなほおぼしきものぞよきとてはなほおぼしきものぞ

右

如教法師

あまの戸の門はくはるるものぞおぼしきものぞおぼしきものぞ

左の寄祝のしるしは後方と決せしむ也

あまの戸の門はくはるるものぞおぼしきものぞおぼしきものぞ

仍以左書後

五番

左 侍從隆祐

^{新拾遺} 朝目彩あさめままししててややぬぬああひひとと乃乃山山ささののちちささううららふ

右

下野

少少ひひめめ乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
たた号号ささせせるる難難多多くく右右号号ああははくくのの神神もも紅紅くく
少少ささくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

六番

左 お

少補

ああとと乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

右

お信長徳

ああとと乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

左 雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

七番

左 お

お位親成

ああとと乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

右

お位家清

ああとと乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

八番

左 孫

藤原友茂

ああとと乃乃雲雲のの神神もも紅紅くくひひららくくくくららああとと目目彩彩のの那
くくややたたううららううくくくくららああとと目目彩彩のの那

胡まよふたのやまはなほくさくさくあつらふ
右 音法師

さうらふまはなほくさくさくあつらふ
左 音法師
右 音法師
左 音法師
右 音法師
左 音法師
右 音法師

九番 山椒

左 音法師

女房

人あつらふまはなほくさくさくあつらふ

右

家隆

さうらふまはなほくさくさくあつらふ
左 音法師
右 音法師

十番

左 音法師

前内大臣

さうらふまはなほくさくさくあつらふ
左 音法師
右 音法師

新拾遺

右

小宰相

さうらふまはなほくさくさくあつらふ
左 音法師
右 音法師

十一番

左

持大納言

さうらふまはなほくさくさくあつらふ

右 務

信成

かほくもやまの標乃をたしむらんかまのあまの
たすあまをさう山のうまにせむおしむ
いつるまの東のうまのあれともたす侍に
紅葉のあまのうまのあれともたす花
ともみくに御難ともすくくたのあまの
たすあまをさう難あまをとりて務とす

十二番

左

道弥

うの季ゆむ乃下る流もあかあもさるふまの山に

右 務

如教法師

たすあまのうまのあれともたす花
たすあまのうまのあれともたす花
たすあまのうまのあれともたす花

新拾遺

あむし後成入道とすりよたあまのうまの
別よあまのうまのあれともたす花
とたあまのうまのあれともたす花

十三番

左 務

隆祐

たすあまのうまのあれともたす花
たすあまのうまのあれともたす花

右

下那

たすあまのうまのあれともたす花
たすあまのうまのあれともたす花
たすあまのうまのあれともたす花

十四番

左 務

お瀬

おちしに花よりおのちをまふおちしにわらわのまはる

おつちやたはらふとわらわのまはるおちしにわらわのまはる

以左お勝

十五番

右 勝

親成

山よりおちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

りまの山れいひちおちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

おちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

おちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

おちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

十六番

右

友茂

おちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

右 勝

若吉法師

おちしにわらわのまはるおちしにわらわのまはる

うらふけてみたる様

十七番 郭一公

右 お 女房

新拾遺
よれやまはまふらんを子祝福とわかれやよ一あうも哉

大 家隆

やうきしむしの里の町を遊ひしよのきもかりく
たけしよの歌よりしんたうらんをういなく
やゆらんそのう入あううま下に思ゆる也た奇
くはもくしんたうらんものよあうに持を

十八番

大 お お内大臣

祚さう新きの森乃子祝ひく志あうらんとなくやう

傍古今
右 小宰相

よらうたけやも月の子祝恵ひ一はる
たの祈をいんたうらん社をそと
るけいのまわとなうらめとらふあうとわらう
強くはゆたか奇恵ひ一はうらもやいせ
いつやま一記るうよはう宣あは

十九番

大 お 権大納言

たれやうそあらぬ思ふ子祝あはるらう一はる

右 佐成

あうして何やうれと御あうらうもあうらうあうら
たたらあうらうあうらうあうらうあうらう

二十番

左巻

道弥

四つ目のさしやうらふは親なく孫はあつる毒の下落

右

如教法師

いふはれしやきつ播乃らふちるさうにひびくさへ

左巻よふあけいひたれとも左の母乃末の自

いふあきやけも仍以た為務

サ一巻

左巻

隆祐

新後撰

志しむる卯の末に郭ふたうさうちらふらうのなるん

右

下巻

たらふの自いふかたをなそ山行しむにばお目さる

左たるさうらふらうのあけいひたれとも左の母あも

さうき難となくもぬれとも左にたれさうし

會いしや

サ二巻

左巻

少捕

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

右

長徳

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

左巻あけいひたれとも左の母あけいひたれとも左の母

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

さうらふのさうらふらうの母さうらふの母さうらふの母

二十三巻

左巻

親成

表裏

保つた心ももつての身入るまのやのめしうひの心ん

右

家法

うもふあつたらちまの月あふ影のやまの影
右号影もつられし規をさしほつらるあつたも
そはあつたのうたやう也た号あつたの心ん
あつたは人さまもそや秋の月とてつらんや
いつあつたもあつたもやうのふ難もあつたお
とつた

二十四番

右お

友茂

あつたの影のあつたの影のあつたの影のあつたの影

右

普門法師

あつたの影のあつたの影のあつたの影のあつたの影

サ五番 萩露

右

女房

右右もつたあつたの影のあつたの影のあつたの影

あつたの影のあつたの影のあつたの影のあつたの影

右

家法

あつたの影のあつたの影のあつたの影のあつたの影
右号影もつられし規をさしほつらるあつたも
そはあつたのうたやう也た号あつたの心ん
あつたは人さまもそや秋の月とてつらんや
いつあつたもあつたもやうのふ難もあつたお
とつた

二十六番

右

お内大臣

あつたの影のあつたの影のあつたの影のあつたの影

右

小宰相

まめあふの風をばなむらひりしおぼあへの霧よあふもあ
た号はゆりよののうらま風吹あつらん免
つゝま極あうらうらうらうらうらうらうらうらうら
はれもしりくくえはくしたの号の号の号の号の号の号の
難もやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

二十七番

たお

控大納言

まめあふの霧のうらま風吹あつらん免

た

信成

ひまの天よ厚の海をくはてしうらま風吹あつらん免

たおのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

廿八番

た

道珠

後撰

まめあふの霧の下ま風吹あつらん免

た

如願法師

まめあふの霧のうらま風吹あつらん免

たおのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あけもまそ絶よもやも仍勝とん

廿九番

た

隆祐

まめあふの霧の下ま風吹あつらん免

た

下野

まめあふの霧のうらま風吹あつらん免

た号のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

た号の難いみくくえはくしたの号の号の号の号の号の号の

三十番

右 お

か浦

右

か浦

あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて

三十一番

右

か浦

右 お

か浦

あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて

廿二番

右 お

か浦

右

か浦

あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて

廿三番 夜鹿

右

か浦

右 お

か浦

あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて
あまのこころをわすれぬとて

三河秋の一夜の寝るにふ片夢ありて此夢を覚るに
 ちのちあまればいふに夢にありていふに
 夢にあればとほいふに夢にありていふに
 惟高のふに片夢を覚るに
 夢にありていふに夢にありていふに
 一くちりたの夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに

廿四番

九

前内大臣

おれもあつねと思へ侍らういふていふに小男を産らる

後序

左 務

小宰相

三河の秋の一夜の寝るにふ片夢ありて此夢を覚るに
 ちのちあまればいふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに

廿五番

左 扱

権大納言

三河の秋の一夜の寝るにふ片夢ありて此夢を覚るに
 ちのちあまればいふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに

右

信成

三河の秋の一夜の寝るにふ片夢ありて此夢を覚るに
 ちのちあまればいふに夢にありていふに
 夢にありていふに夢にありていふに

卅六番

左

右

秋の月夜にさうふり月夜本は雲のくははさそふさふ

後拾遺

右

如法法師

まじりてのゆくいふささく麻のうらとあつかり

左 号うらさう難いふれはまの号たふり

侍の侍とさへ

三十七番

左 お

隆祐

じよまのあやふらんさうさみあうすまのあつたさう

右

下野

秋のふつとふ麻のさしおていささ様をうらさけさう

左 右の小あさりさうりくやの侍員さうさる侍

三十八番

左

少輔

いさ文のあささうあさあさひよまのあさのあつ侍^あ

右 侍

右 総

ああさうらあささうの月夜よいささ麻もさう

左 号本あさのあつ侍りあささう

さかんあれはまの号いさうさうあさあ

侍とさへ

三十九番

左 お

親成

あさうらあささうの月夜あさあさあさあさあ

右

家清

あさうらあさあさあさあさあさあさあさあ

新拾遺

家清

左の号よりふちくきそあつくたりきく
しほの藤のよほめしにたの号より教もた
あめあいらんとあつたあうりあうりあ
らん麻を秋よちちあねさくしほちくもれ
さうりあ秋の萩さうあうりあてあて左今
ふありたの号よりて務員さくかむあつた

四十番

左 翁

右 女房

やうあれまのまの理あまのあつたのさ
くはあつた
さうりああつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

くはあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

ゆねもれたあつたあつたあ

四十一番 時雨

左 お

女房

物おつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

右

女房

あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

四十二番

左 お

女房

あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

新編古今

大

小宰相

のしれ月本此景河東あはらふらふれはあつゝのあつゝし
大右とよみ金とさやうよん白たきじし
人あつゝしとさ大さきとあつゝのあつゝし
らとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし

四十三番

大 務

権大細言

新編

月じせふ権原の時あつゝしとさあつゝのあつゝしとさ

大

信成

のあつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
右あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
左あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
右あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし

四十四番

大

る 跡

あまの色をばあふとあつゝしとさあつゝしとさあつゝし

大 務

あつゝしとさあつゝし

新編

あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
大あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし
あつゝしとさあつゝしとさあつゝしとさあつゝし

四十五番

大

隆祐

かづの月くさるるのさきもはなれはてあるさくら

右傍

下巻

さくらわさきさきありて今もさきさきありて
なまの月くさるるのさきもはなれはてあるさくら
めりよはくくさるるのさきもはなれはてあるさくら
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて

四十六番

左

右

さくらわさきさきありて今もさきさきありて

右傍

左

さくらわさきさきありて今もさきさきありて

左 浦れさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて

四十七番

左傍

右成

かづの月くさるるのさきもはなれはてあるさくら

右

家信

偽のさきさきありて今もさきさきありて
なまの月くさるるのさきもはなれはてあるさくら
めりよはくくさるるのさきもはなれはてあるさくら
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて
さくらわさきさきありて今もさきさきありて

四十八番

友お

友茂

おれ月三郎のつれづれの夕時多きなりとあるまじき人
おれは神

時多し月三郎のつれづれの夕時多きなりとあるまじき人

友お

おれは神

おれは神

おれは神

おれは神

四十九番 忍恋

友お

女房

おれは神

友

家隆

おれは神

おれは神

おれは神

おれは神

おれは神

五十番

友

お内大臣

おれは神

續後撰

友

小宰相

おれは神

おれは神

おれは神

定れる事あるは又の七文字乃内三文字紙
とれるに文字乃をよむおもひまゝにゆゑもや耳
よまゝにやゆゑもたの思ふよも思ふも思ふ
とつるをよむくは由縁とせしむ

五十二番

九 勝

権大納言

かゝる川神の玉子の下乳ま入やいふ人せしむ

六

信成

あまの海山くくぬの思ふは菅まてあく水は結われり
たねともいふ思ふはふんぬれとし神の玉藻乃
まゝにみられるは思ふくは也仍以たね勝

五十三番

九

乃 臨

難波のやぶりくは菅のよもれ落つ涙とみる人や

七 勝

如教法師

菅の屋の旁たは師ふ夕烟志の思ひもみちや絶るん
たねともいふ思ふはふんぬれとし神の玉藻乃
みちやまゝにみられるは思ふくは也仍以たね勝

五十三番

七 勝

隆祐

おもしろ事なぬら昔も涙とみるくはぬらぬらぬら

七 勝

下 野

いふせん又まゝ人も思ふはくは涙とみるよつ夏の小枕
たね思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ
まゝにみられるは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ
かゝる思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
おろやあれさしあし移しあふあふあふあふ
あしはたさくあふあふあふあふあふあふあふ

五十四番

左 傍

少 輔

あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ

右

中 尾

いんせん若の下のあふあふあふあふあふあふあふ
左のあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ

五十五番

左 傍

親 成

あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ

右

家 清

あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
左のあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ
あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ

五十六番

左 傍

友 茂

あしちいそはなれさくはあ乃いそあよとれ

右

若 成法師

阿比き乃山のゆゑあいの垣あふさし清きうきう人ぞあは
た喜いと珠くふあふねとさうて難みよあ
た欲山れゆふ阿いの垣あふさし清きうきう人ぞあは
屋うまれともさうてあふさし清きうきう人ぞあは

五十七番 久慈

左 お

女房

あふさし清きうきう人ぞあは

右

家隆

志津川つれあはれ中ふゆふもせられぬあふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは

五十八番

俣後拾遺

左 お

お内大臣

俣後撰

右

小宰相

いかにせん命もさぬ松山のうへに浪きくからぬあふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは
あふさし清きうきう人ぞあは

五十九番

左 侍

権大納言

あふさし清きうきう人ぞあは

右

信成

あふさし清きうきう人ぞあは

よけくくもん侍もや志多の淵とありてと
とくまつとあつと縁久らとつとくもゆふ下
にいしめて神のまふふもへんとといふ思ふよ
くもれるやうもあつとくもねふたはる傍

六十番

左

道弥

いそせ川をいさるもあつとくもねふたはる傍

右 傍

如法法師

志多の淵にまふとくもねふたはる傍
左 志多の淵にまふとくもねふたはる傍
おほつとあつとくもねふたはる傍
とくもねふたはる傍
とくもねふたはる傍

六十一番

左 傍

隆祐

新拾遺

いそせ川をいさるもあつとくもねふたはる傍

右

下野

志多の淵にまふとくもねふたはる傍
左 志多の淵にまふとくもねふたはる傍
おほつとあつとくもねふたはる傍
とくもねふたはる傍
とくもねふたはる傍

六十二番

左 傍

か 傍

志多の淵にまふとくもねふたはる傍

右

七 傍

遊歴

くまうしにひさしのあそび残りゆくあまのこもあまの秋の本指
たのきもあそび侍一人のあそびもあそびはまなかり
たのきもあそび侍一人のあそびもあそびはまなかり
くまうしにひさしのあそび残りゆくあまのこもあまの秋の本指

六十三番

た

親成

きつてもあそび侍三輪のいふあまのこもあまの秋の本指

た

家隆

ありそのこころにたのきもあそび侍一人のあまのこもあまの秋の本指
たのきもあそび侍一人のあまのこもあまの秋の本指
あまのこもあそび侍一人のあまのこもあまの秋の本指
たのきもあそび侍一人のあまのこもあまの秋の本指

六十四番

たお

友茂

おまのこもあまのこもあまの秋の本指

た

若菜

おまのこもあまのこもあまの秋の本指

六十五番 羈旅

た

女房

おまのこもあまのこもあまの秋の本指

た

家隆

おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指
おまのこもあまのこもあまの秋の本指

淡路とほくもろくくは路くちうーまに振丸太
為橋

六十六番

丸橋

お内大臣

日暮とくちれいどあはまの山あふちきさうゆあはか

丸

小亭お

右のたもろもあぬあは後けいの涙もろりう袖よか

丸あまれいもあはちちらさうひてあはちち

をささしほけさうあーくは由丸あまろく

みゆれともね丸橋とま

六十七番

丸お

信成

吹とじらおとろちかしのりなまふま山うふあまのう浪

丸

信成

まろくぬ山路の露にやろりまそ月もまろあ橋や想

丸あまれい山のうく家橋酒のい川くはも宛え

おわり霧橋よもまはいも人あつり橋河院百首

乃橋のあまの酒のそはまろくまろく

和号あまろく人こ中傳ハ霧旅と酒と入徳家

とにの回事ハ作れとも中くやとこ

とろくろくろくあはちちあつり丸あ

霧旅乃れきたうなれとも丸よ橋くまお

六十八番

丸お

道弥

あまろく丸のあ乃あやまろくく丸よあ月紀

新拾遺

右

如來法師

和回の原やうしほうきしんせふまふらふしんせふの節并
たたとのいふくのかあま一極よりくくくく
たはくしと枕よのころ月氣と云たやそ一極し
くまふくせふとくくくくくくくくくくくくくく

六十九番

九お

隆祐

まふくしんせふのころくくくくくくくくくくくくくく
右

あつたさうふふなうらりあり難あまらるるまのあま
たもあつたさうふふふふふふふふふふふふふふ
まふくしんせふのころくくくくくくくくくくくくくく

傍まていあうく

七十番

九傍

か浦

かるりん一在るまてくくくくくくくくくくくくくく
右

かろりろ我右のきつてり也とてはたはたの浦
たもあつたさうふふふふふふふふふふふふふふ
たもあつたさうふふふふふふふふふふふふふふ

七十一番

九

歌成

まふくしんせふのころくくくくくくくくくくくくくく
右

おれりしはたの枕よりくくくくくくくくくくくくくく
新後吉本

遠鳥

二二

九お

少補

とらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

右

長細

いふ文をのつと時乃あくとあふりつひもたふ山乃あふ家

十九番

七十九番

十九お

親成

山との庭乃あき指染あつて嵐そつらつらふ人まわ

右

お信

とらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

十九番

十九お

十九お

家長うぬこまひとらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

八十番

右

友茂

あひこの山乃庭は信人ともとらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

右勝

若菜の法師

あひこの山乃庭は信人ともとらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

あひこの山乃庭は信人ともとらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

あひこの山乃庭は信人ともとらねくもららるるにれんまをまひ信源を三藩の芦垣

女房 傍一員三指六

家隆

前内大臣 傍三員三指四

小宰相

基家 傍四員一指五

信成

沙弥道尔 傍二員七指一

如願法師

隆祐 傍五員一指四

下野

少輔 傍五員二指三

長徳

親成 傍三員二指五

家清

友茂 傍二員三指五

善真法師

